

県議会議員

# あらい、絹世の磯っ子レポート

県政を  
もっと  
身近に



<http://www.araikinuyo.jp>

## 箱根で初の国際シンポジウムを開催 神奈川県が10月を未病月間に制定

全国有数の速さで超高齢社会が進む神奈川県では「高齢になってもだれもが生き生きと健康に暮らせる社会づくりを。そのためには病気につながる未病状態(健康ではないが病気までにはなっていない。生活習慣病など)を治していくことが大切」と昨年1月、黒岩祐治知事が「未病を治すかながわ宣言」を行って運動を推進していますが、今年から10月を「未病月間」と定め、取り組みを盛り上げていくことにしています。昨年3月には「地域興しにも役立てられれば」と、県西地域を未病の戦略的エリアに決め、核となる「未病いやしの里センター」(仮称)設置の作業などを進めてきました。さらに今年あまりなじみのない未病について世界的にアピールしていく試みにも乗り出します。10月22~23日に箱根のホテルで全国でも初めてとなる国際シンポジウム「未病サミット神奈川2015 in 箱根」を開催します。国内外の専門家をスピーカーに招いて討論し、未病の価値を広く世界に発信することにしています。これに先立ち10月14~16日にパシフィコ横浜の展示ホールで開かれるバイオテクノロジー分野の展示会「ME—BYO Japan 2015」には約30の企業・団体・自治体が未病関連で出展参加することにしています(入場等は原則事前申し込み)。

**国際シンポジウム** 日・米・フィンランドなど4カ国の専門家ら30余人が講演や4つの分科会での討論を行い、大会宣言も行われます。参加者は協賛企業、大学・研究・行政機関などの約200人。県では市民向けとして来春までに大会の概要をまとめた資料をつくり、配布することにしています。

**未病の戦略的エリア・未病いやしの里センター** 対象となる県西地域は小田原、南足柄の両市、中井、大井、松田、山北、開成、箱根、真鶴、湯河原の8町からなるゾーン。県や自治体、企業などの事業者が情報発信・相談・集客施設の併設、健康食の提供・医療サービス・ウォーキング・農業体験などを展開します。8月には同センターの設置場所が大井町に決定。来春までに基本計画案を決めることにしているといえます。9月1日には薬膳料理を提供する湯河原温泉の旅館と小田原市内のカフェが「未病いやしの里 里の宿・レストラン」として認定されました。

**未病センター** 取り組みの一環として県では各地の施設が未病センターとして認証を受ける制度を進めています。第1号として今春、小田原にオープンしたスポーツクラブが受けています。



### コレが言いたい!

全国有数の速さで超高齢社会が進む本県にとって、健康寿命の延伸のためにも「未病を治す」取り組みは必要ですが、まだまだ「未病」という概念が県民に浸透していない中、世界に発信すると共に、県民に分かりやすく更に説明していく必要があります。

今月の  
ひと言

平成27年10月17日(土)から10月23日(金)までの1週間、「薬と健康の週間」です。薬の飲み合わせなど気軽に相談できる「かかりつけ薬局」を持ちましょう。また、過去に使用した薬や現在使っている薬について伝える事が出来る「お薬手帳」を持ちましょう。

# 磯子 あれ？ これ？

## 杉田陣屋

## 戦国時代～江戸後期

京急杉田駅より東方へ  
約300m(杉田1-12周

辺)に笹下城主間宮信元の弟信次が領主となり、安房里見軍の侵攻に備え陣屋を構えました。磯子の海岸線の埋め立てにより海岸から今では離れますが、かつては海岸線より砂浜が広がり、陣屋は200m程の場所に設置されたと思われます。新編風土記には、「陣屋は小名辻にあり、方一町ばかりの地なり、間宮左衛門信次以来世々の陣屋なり」とあります。また、陣屋の一角には倉があり、飢餓に備えヒエやアワのほかタニシの干物などが貯蔵されていたそうです。

信次は、天文15(1546)年、三浦半島走水で里見軍との戦いで戦果をあげ、里見軍を撃退しますが、43歳の若さで討死しました。小田原北条氏が秀吉に敗れた結果、間宮一族は家康に仕えるようになります。杉田間宮家は九代続きその後嗣子がなかったために元文5(1740)年に断絶し、陣屋も廃止されました。いつの頃から畑となり、今ではその様相も一変して住宅地となり、かつての面影を感じるものは在りません。かつて磯子の名所だった「杉田梅林」は、三代目信繁が梅の樹を植え、その実を売って領民の生活の助けにした政策がもととなって出来たものです。

### 活動報告

9月16日一般質問に登壇致しました。質問内容は、  
○「ワーク・ライフ・ケア・バランス(仕事と介護の両立)」について:本県では、働く人にとって「ワーク・ライフ・ケア・バランス」をやすくする職場環境の整備に向け、どのような取組みを進めていくのか。  
○「災害対策におけるピクトグラムの普及」について:1964年東京オリンピックを契機に普及が広まった「ピクトグラム」と呼ばれる絵文字。今後、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて国際化の波が加速してくる本県にとって、外国人に限らず高齢者や子供たちにも、一目で理解できるピクトグラムを防災対策に活用していくべきではないか。  
○「堀割川における親水施設の整備」について:平成27年5月の大岡川水系河川整備計画に堀割川八幡橋付近の河口の地区が整備地区として新たに位置付けられたが、親水施設について、今後、どのように整備を進めていくのか。



その他、○「女性の自立支援」について / ○「県立汐見台病院の移譲」について / ○「子宮頸がんワクチン接種後の健康被害支援制度」について / ○「重い病気を抱えた小児患者とその家族への支援」について / ○「エスコートゾーンの設置状況及び今後の整備方針」について

### あらい絹世 プロフィール

- 昭和43年3月8日 横浜市磯子区生まれ
- 横浜雙葉小・中・高等学校卒業
- 明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業
- 日商岩井(株) / (株)メタルワン
- 自民党かながわ政治大学12期生
- 平成27年4月 県議会議員2期目当選
- 県民企業常任委員会委員
- 行財政改革・地方分権特別委員会副委員長
- 自民党神奈川県議会議員団政務調査会副会長

